

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域の中で、こちよく安心して暮らせるグループホームを目指す」事を理念に掲げ目標としている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、日頃から実践に向けて取り組んでいる。また、職員一人ひとりが理念を掲示したカードを携帯している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進委員会や家族会の場で説明し、理解していただけるよう取り組んでいる。	○ 今後、さらに理念にそった生活援助をしていることを理解していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に加入し、近所で買物をしたり散歩をしたりして、交流を深めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(盆踊りや獅子舞等)に積極的に参加し、地域の方々との交流を深めている。また、市内のグループホームと共同で「ふくし祭り」に参加し、地元の人々との交流に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>今後も、地域の方々が気軽に利用できるような、憩いの場を提供できるようにしていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>研修会等に積極的に参加し、理解を深めていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に「運営規定」「重要事項説明書」や「重度化に係わる指針」について十分に説明している。また、疑問点があればその都度説明をおこなっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>担当職員が、言葉や態度から思いを察する努力をし、職員間で情報を共有しミーティング等で話し合いを行っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回健康状態・金銭管理等の報告を行っている。また3ヶ月に1度ホーム便り「サルビア通信」を発送している。面会時には、個別に近況報告等を伝え、状況に応じて電話にて報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「目安箱」を設置し、いつでも気軽に意見をいえるようにしている。「重要事項説明書」のなかに苦情窓口及び担当者を明記し、苦情があった場合は速やかに改善するようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営会議やユニット会議を行い、職員が自発的に意見を述べやすい場を提供している。また、年に2回自己評価シート、個別面接を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状況に応じて柔軟な対応が出来るようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニットの職員は基本的には固定し、異動は最小限にしている。また、日頃より他ユニットとの交流を図り異動しても支障のないように努めている。離職者が出ないように職員間で話し合う場を設け、相談しやすい雰囲気作りに心がけている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を發揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>募集に際しては、性別・年齢・介護経験・資格などを理由に募集対象から排除することはない。資格取得希望者には、勤務の調整を図ったり、研修等に参加できるように配慮し、自己能力の開発が出来るように支援している。</p>	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>参考資料等を活用し、職員への勉強会に取り組んでいる。</p>	<p>○ 今後も、研修会の機会があれば参加していく。</p>
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の勉強会や交流会等に自由に研修参加できるように研修案内をしている。</p>	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入すると共に、宮若市内のグループホームで「GHみやわか」を発足し、勉強会、情報交換、ふくし祭りの参加等を通じて横のつながりを深め、質の向上に努めている。</p>	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会を行ったり、有給休暇消化推進に努めている。また、交代で休憩時間を取るようにしている。</p>	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回の自己評価や、個人面談を行いコミュニケーションを図り、スキルアップできるように取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人に面会したり、見学にきていただき、できるだけ本人の話を聞く機会を作り、安心していただける関係づくりに努めている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談内容を十分に伺い、どのような支援が必要なのか、事業所としてどのような対応が出来るのか話し合っている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況を確認し、必要としているニーズに対応できるように他のサービスも含め柔軟に対応している。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に入居前に面会にいたり、見学や、体験入居を利用していただき、職員側も安心していただけるような対応を話し合い、サービスを開始するように相談、工夫している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者のペースにあわせて、家族同様に接し、一緒に生活していくという意識を持ってお互い助け合い、支えあう関係を築いている。</p>	
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族会や行事に積極的な参加を促し、家族と話し合う機会を多く待ち、情報交換を密におこない、互いに本人を支える関係を築いている。</p>	
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>面会の際に、入居者の近況を報告したり、外出や行事の際にも、家族に参加していただき、より良い関係が築けるよう支援している。</p>	
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>いきつけのお店に買物に行ったり、美容室にお連れしたりしている。また、町内会や老人会の方に訪問して頂く様にお声をかけている。面会に来られた際には、楽しい時間を過ごしていただけるように努めている。</p>	
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>コミュニケーションが取れるように職員が会話の橋渡しを行っている。また、状況に応じて、席替えをしたり、お互いに相手を理解して頂けるように声かけをしている。</p>	
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院されている方の面会に行ったり、ご家族様に近況を伺ったりしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、言葉や行動を様子観察し、思いやサインに気づき、見逃さず記録しておき、ユニット会議等で本人の視点にたった取り組みを検討し実行している。また、意思疎通が困難な入居者の方は、ご家族から情報収集し検討している。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、病院、施設等から今までの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、経緯等の情報を提供していただき、把握に努めている。	○ 今後、センター方式を参考にしたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の心身状態や、生活のリズムを把握し、自助能力が発揮できるように努めている。また、日々の状況を記録に残し、現状把握に努め、職員間で情報交換し、共有できるように取り組んでいる。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人との日頃の係わりの中で思いや意見をお聞きし、職員がご家族から要望等を伺い、ケア会議・ミニカンファレンス等で課題を明確にした上で介護計画を作成している。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、評価を行い、3ヶ月に1度介護計画の見直しを行っている。また、状態の変化に応じて検討、見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、介護計画の実施状況等を記録に残し、職員間で共有しながら対応を考え介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	内科、歯科は往診体制を取り、緊急時にも対応できるようになっている。また、希望される外出先に付き添い、送迎等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に2～3回のボランティアの訪問がある。消防訓練をおこない、民生委員等にも緊急時に協力していただける体制を取っている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の変化、状態に応じて、提携病院の医師と連携を図っている。他のサービスを利用される際には他サービス事業者と十分に話し合うように努めている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働はなされていない。	○	運営推進会議等に地域包括支援センターの職員の参加を呼びかけ、情報交換、助言を受け、協力関係を築いていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望を大切に、適切な医療が受けられるように支援している。事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるように家族と協力を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ではないが、認知症に詳しい提携病院の医師のアドバイスをいただき相談している。		
47 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。医師や看護師には24時間相談、助言、対応ができる体制を取っている。		
48 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来る限り職員が面会に行き状況把握に努めている。ご家族、病院と、必要に応じて話し合いをし今後の対応について検討をしている。		
49 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係わる指針」のマニュアルを作成し入居時に家族に説明を行っている。本人、家族や医師と協議の上、十分に話し合い、段階に応じてその都度意思確認をおこなっている。		
50 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族の意向を踏まえ、安心して納得した最後が迎えられるよう随時意思を確認しながら取り組んでいる。また、重度や終末期の入居者を支えるためのチームの連携や諸条件を備えるなどの準備を行っている。		
51 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしや、生活環境の継続が保たれるように情報の提供や協力を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個性に合わせた言葉かけやケアを心がけ、尊厳を守りながら対応している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	職員本位にならないように、本人の能力に応じた声かけをし、日々の状態観察に努め、自己決定ができる場面を作り支援している。、	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、個人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。	○ 行事の時等、スタッフのペースになる事があるため、余裕をもって行い、入居者のペースで行えるよう努力したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしさを大切にしながら、季節にあったもの、好みの服を選んでいただくなど、それぞれが望むおしゃれを楽しんでいただいている。入居前からのいきつけの理美容なども継続して利用いただいている。希望により訪問理容もおこなっている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きな音楽を流し、職員も一緒に食事をし、話題を提供したりして、楽しい雰囲気作りをしている。準備や片付けも出来る限り手伝って頂く様にしている。好みを聞きメニューをたてたりもしている。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みのものは、その時の要望や体調を踏まえて楽しんでもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努め、トイレの声かけ、誘導をおこなっている。その方の状態にあわせ、夜間帯はオムツの方でも日中は紙パンツとパットにて対応し、トイレで排泄していただけるよう支援している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックをおこない、その日の体調にあわせ、出来るだけ希望にそった入浴が楽しめるように支援している。	○	曜日や時間帯がきまっているので、希望があれば意向に添うよう心がけたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間は決まっておらず、個人の生活習慣や、その時々状況に応じた支援をしている。また、日中の活動を充実させることで生活のリズムを作り安心して休息できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に本人や家族から情報を聞き、個人にあった楽しみを支援している。(買物・カラオケ・草取り・掃除等)季節ごとの行事や誕生会などで気分転換が図れるよう支援している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月2回の移動パン屋を利用し、好きなものを選んで自分で支払いをして頂いている。また、事前にご家族よりお金を預かり、食事や買物が出来るよう支援している。能力のある方については自分で管理され、使っていただけるよう支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の健康状態や気候に応じて、近くをドライブしたり、おやつを食べにいたり、散歩をしたりしている。入居者によっては、スーパーや衣料品店に買物にでかけたりしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者より行きたいところの希望があった場合は、できる限り計画し実行するようにしている。また、家族に声かけし協力していただいている。また、家族会の行事として、家族・入居者・職員全員で花見や外食を兼ねた外出をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される場合は電話を使用していただいている。また、本人が利用できない場合は、職員が代行している。年賀状等、必要に応じて支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には、居室やリビングでおやつや食事を一緒にとっていただき、くつろげる様工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束防止マニュアル」を作成し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	20時～6時までは防犯上の理由で玄関及び居室には鍵をかけている。日中はセンサー等を取り付け鍵をかけない工夫をしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを尊重しながら、リビング等で作業を行い見守りをおこなっている。居室で過ごされている入居者にも声かけをしながら様子観察をおこなっている。夜間もトイレや居室が見渡せる場所で作業を行い定期的な巡視をしている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる物品については、管理・保管を職員が行っている。また、入居者の状況に合わせて職員が付き添い、見守りをおこなうなどして対応している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態から、予測される危険を推察し事故防止に取り組んでいる。事故がおこった場合は、職員間でミーティングを行い原因を追求し事故防止対策について検討している。	○	予測されるリスクに対応できるよう職員間で話し合い、状況を判断し、事故につながらないよう取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	「緊急時対応マニュアル」を作成し、その手順にそって対応している。また、職員の何名かは応急手当講習に参加し、救命処置(心肺蘇生法・AEDの使用法)等を学んでいる。	○	今後も、定期的な勉強会を行ってきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「防災対策マニュアル」を作成している。定期的な訓練を行い、近隣の住民に災害時の協力要請を行っている。また、災害時に備え、食料品や飲料水を備蓄している。	○	常に防災への意識を持つよう職員で意識付けを行っていく。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族に、入居者が自由な暮らしをすることによって起こりうるリスクについて説明をおこない、理解を得ている。状況にあわせ随時説明を行い対応策を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、一人ひとりの体調を把握し、少しでも変化があった場合は申し送りをし、看護職員に指示をうける。必要に応じて病院受診を行っている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合わせた服薬への支援を行い、服薬チェック表で管理をおこなっている。職員は病院より渡される処方箋に目を通して、変化があればすぐ対応できるようにしている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく自然排便ができるように、水分量や食材やメニューの工夫に心がけている。また、散歩や身体を動かす機会を設けている。服薬については、一人ひとりの状態にあわせて医師と相談の上使用している。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科衛生士を配置しており、毎食後口腔ケアを実施している。月2回訪問歯科診療を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算を行い、個人の嗜好をお聞きし、調理師により調理が行なわれている。個々の食事量や水分量をチェック表にて把握し、状態によってはきざみ食等に対応している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	「感染症予防マニュアル」を作成し、マニュアルにそった対応や情報の共有を図り予防に努めている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は、毎日消毒、殺菌を行い衛生管理に努めている。食材は、四季折々の新鮮なものを使用し、日付や在庫管理の徹底を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花々を植えたり、季節に応じた飾りつけを行い、暖かい家庭的な雰囲気になるよう心がけている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングは季節を感じられるよう工夫し、観葉植物や花を飾り穏やかな雰囲気が保てるよう工夫している。また、キッチンはリビングと対面式で、匂いや音が聞こえるようになっている。採光にも注意を払い、入居者が不快にならないよう心がけている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーとリビングにテレビを設置し、お好きな場所でくつろげる様に工夫している。また、たたみコーナーを設けており、横になったり出来るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れたものや好みの家具などを揃え、以前と変わらずに暮らせる雰囲気作りを行っている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムを採用している。各所に温度計、湿度計を設置し、こまめな調節に心がけている。冬場は加湿器等も使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー設計をしている。居室や廊下等の共有部分に手すりを設け、浴室には滑り止めマット等を設置し自立した生活が送れるように工夫している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレはドアの色をかえたり、個々の居室に表札や目印となるものを表示し、混乱や失敗を防ぐよう工夫している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇やプランターを設け憩いの場となっている。 玄関前の駐車場では神輿や盆踊りが行われ、地域の方々と交流する場となっている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

住み慣れた地域の中でこちよく安心した暮らしができるように、入居者様一人ひとりの個性を尊重し、今までと変わることなく毎日が過ごせるように取り組んでいます。入居者の健康管理に配慮し、月6回の往診や回診、月2回の訪問歯科診療などをおこなっております。職員も介護支援専門員(歯科衛生士)2名、看護師(正・准)3名、介護福祉士4名、保育士1名、栄養士1名、調理師2名、ヘルパー2級7名等有資格者を配置しております。入居者や家族から「ここに来てよかった」と心から言っていただけの施設を目指して、介護スタッフ一同「質の向上」に努めて生きていきたいと思っています。